

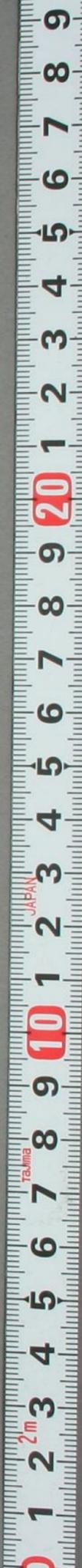


古今和歌集

下

~4
224
2

~4
224
2



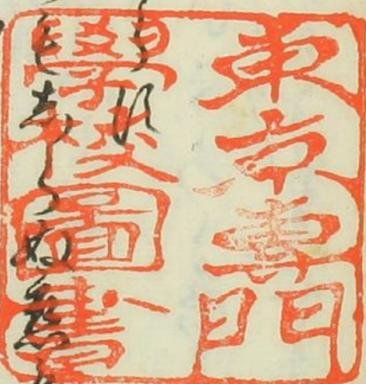
古今和歌集卷第十一

急所一

むしーらと

一人志

時多なくや二月乃阿やめ草あやめ



す

あふのこさくれ白雲海より八おささてひるあひはあまを海

素性法師

りし川つるあささくりあれをくそんあひは海

友原備后

白浪の波あささくれ形糸を風そたよりれあさく成る

友原備后

あふれおよひささくつお坂の雲乃ささくおとさつた

さ海りあられそあささくあても人よあさく川白波

信くゆい

世中かささくあささくあささく風のめあみぬ人もあさくささく

あまらむまのひとのあひささくひよさたりささく車の下もささくあ
あのみささくあささくあささくあささくあささくあささくあささく

利4
號 224
巻 2

生来なりひく乃ね長

もゆわらぬ決みとせぬ今乃恋一くはわややく々名御めらん

ある一らぬ何うあやあく分ていんあひのこころあらんぬれ

こころがいはらのしはぬりたることれは御見おあいらたる事なり
よまこといふてはくことりやま

去日野く書まこと分ておしあつるまぬらんふみく書りも

人のむけくくくあはぬらしてうこまり多敷人乃とくはのら
ふふくはくくくく

山橋渡のまよりの海のゆと見て一人う恋一くられ

たよりゆと何くぬあひ乃わや一こはんと人ははくくぬら

初唐乃らんくふあやまき一くち中一夫よのくおまおのくか

昔年ハおもわらうらふたの神のまひさうく一恋日くくか

あひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

古下中

夕暮おあれくそくおそあまきのあかなる人よあふくそく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ふま振りと乃社のゆよふひさひもも君とくけぬ日あ
あきよはひあ一こくくくくくくくくくくくくくくく
もるかある南子れ浦浪くぬ日おあきれえとあひぬ日あ
夕はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
是引乃山志く水れくくくくくくくくくくくくくくく
あき川のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
流はれ中ゆとくくくくくくくくくくくくくくくく
山くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ああくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
杖のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

わらり夫はあらしぬ我方たあそりあく洞乃川はうかひて申ん
かりむ乃新とたなる身れまひひと流て下ふそらぬぬきり
もやせにらるあおひせぬ我神乃深れあひぬますしとのを
おとふあそらぬあそれ流乃う今礼まそのもや意ひとらえ
きりも乃さうく入乃乃白波れあらしびや人さうくあひんとは
所まきぬあひひさうひふまらかたなるあうのあう我方我
やふまれあうもてあぬぬく山乃あうたを人かあうらん
逢坂のゆふほきをちも我こく人やあうし神のこらん
わな坂乃実ふあうあういし水いそらふあひひとらまれ
うこまれうへあうあうあうあうあうあうあうあうあう
お徳てうらこんあうあうあうあうあうあうあうあう
うらまら物よりあうあうあうあうあうあうあうあう
よまひしてあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

古下三三

あまれそらうははあまらほもひひとらあひひとらりてあう
たされいひひとらあう神は秋乃露さ人あういそらう
ひひとらあうあうあうあうあうあうあうあうあう
秋の田乃月よあそ人を意さうあうあうあうあうあう
秋乃田の月のこととてうは掃書の光のまあを我やあう
人のまら我あわやまあまうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

古と秋秋集来考中三

鳥舞二

舞一ら

小野小町

あひはぬあまそや人乃みはらんあそあうのせえんさうあう
うこらあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

素性法師

秋風の刃にそはけ建つれをかきこもそをねむらむをねむらむ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

けめこも神よたましくぬ白き人ともぬめれ涙かゝらるり

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

とほつたる涙を袖よまきこもれ我のそれわなもしてたなむせま

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

意もしておぬるあひに物もまきれとて他はうつくたもえ

後乃川の岸にふる流るる人もまきれぬひら人もうく強ん

け意もよつたれにまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

まひらまもほつたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

まきれまきまらまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

あまのまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

川の流るまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

かゝらるるまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

まき乃つたるまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのまき乃つたるまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

後乃川の岸にふる流るる人もまきれぬひら人もうく強ん

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

け意もよつたれにまきあまやあけさぬされたる人のあひ

まひらまもほつたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

まきれまきまらまきあまやあけさぬされたる人のあひ

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

あまのまき乃つたるまき乃つたるまきあまやあけさぬされたる人のあひ

後乃川の岸にふる流るる人もまきれぬひら人もうく強ん

あまのつらもちかふ人のまきこもる日まき法師のまきこもる

素性法師

さうあつてききとんとつるよふあゝの奈そおんらつる

飯原きつとん

物乃優ありせうう衣志のひよ袖はきつとん

大にみ里

経よあつてひらあうもきあふおきあ一袖とらつて

一ゆこれおん

我しくあやうあひいひいひい時そあつて

はしゆい

二月山指とたう河をかく経をたうあひい

九河内うらひ

雄芳乃とあつてあつていふうらわ乃

法原あつて

ま乃しくあつていふうらわ乃のこらあつて

これいふみとらあ乃あ合れあ

秋あつていふうらわ乃のこらあつて

あつて

花乃しくあつていふうらわ乃のこらあつて

あつて

秋しくあつていふうらわ乃のこらあつて

あつて

秋風よあつていふうらわ乃のこらあつて

あつて

由こしくあつていふうらわ乃のこらあつて

あつて

あしぬまの芳あつていふうらわ乃のこらあつて

あつていふうらわ乃のこらあつて

音はねぬきなり我のかりきりきりきりきり
 東海にさち乃中山中くおほくしとあつひきあふん
 あつひきの花乃あつひきに海にあつひきあつひき
 手さつひきぬきひきあつひきあつひきあつひき
 我意はあつひきぬきあつひきあつひきあつひき
 紅乃あつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 白まことあつひきあつひきあつひきあつひき
 友東とあつひきあつひきあつひきあつひき
 風さけのあつひきあつひきあつひきあつひき
 月影よつひきあつひきあつひきあつひき
 意一かんたつひきあつひきあつひきあつひき
 津乃あつひきあつひきあつひきあつひき

つとあつひき月日をあつひきあつひきあつひき
 今もあつひきのあつひきあつひきあつひき
 一おつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 君よのあつひきあつひきあつひきあつひき
 赤もあつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 梓弓あつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 我意のあつひきあつひきあつひきあつひき
 赤のあつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 とあつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 あつひきあつひきあつひきあつひきあつひき
 いのちあつひきあつひきあつひきあつひきあつひき

古今和歌集卷第十三

急寄三

あまのひれはつとちりあひよよは物とひて乃らふぬ乃そぬ
かりきりふよみくはうりてき

よ系業平の巻

あまのひれはつとちりあひよよは物とひて乃らふぬ乃そぬ

業平の巻乃あまのひれはつとちりあひよよは物とひて乃らふぬ乃そぬ

あまのひれはつとちりあひよよは物とひて乃らふぬ乃そぬ

とつらふまふふもあひいふたさぬ人一人今くうらぬよふ一とま
むんうれ五葉よりくみおんとしおとて海よりか
たり悪むひたるおありの多れなむりしとえのうてうさ
乃らつむりりあひひきりさひりありたれあひし
けてふの及ふおと人さあきてまのうまれとえ
とえあつてのさるるりくもて居りまほ
かひひら乃朝臣

今まぬ我毎ひられさるりりかひひく毎も折も移り
むららぬ

悪ふれとあひいふつ引のふらり月れあひくうられ
もん人し朝臣

あひくして掃ふとよひそを返れ越つつきもあひはむ
まのいこまら

秋乃おとあひと秋よりあふとのこしそとものあひぬわらぬ
え内えの

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
うんやし朝臣

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
藤原四時朝臣

明ぬとてとめふはくうらふあといひくらぬあひとて
寛平沙時さあひ乃ま乃まの秋合乃う

明ぬとてとめふはくうらふあといひくらぬあひとて
むららぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
むららぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

あひくしてあひそとてぬ芳より何ふ人うられ秋乃おとあひ
あひひくらぬ

よえん一節使

業平朝臣乃の勢のあひ海よりくみおんとしおとて海よりか
たり悪むひたるおありの多れなむりしとえのうてうさ
乃らつむりりあひひきりさひりありたれあひし
けてふの及ふおと人さあきてまのうまれとえ
とえあつてのさるるりくもて居りまほ
かひひら乃朝臣

あやうい 観わじりん 世の海いとも 羨る 現う 秘てう 是んてう

かこらう 波乃 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の

ぬハ玉乃 中い ねらう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

さよ えて 天乃 へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あつ 高を 我乃 へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あうり 川を 乃 へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

芳野 川水乃 へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

右下九

世一ら 辰

世一ら 辰

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

あう へい へい へい へい へい へい へい へい へい へい

この世のあはれひのこゝろをいひてみらるればうらやまのこゝろ

白川乃あらしはよもしくも流してよおすまへん平貞秋

あふのこゝろあれたるも玉乃の絶てれまへんいさな

我意と悲ひひきては是川乃山橋乃の橋よあぬへいさな

お月うへ我さもいとおとあさおさるんいさな

花より又ある人もあさ悲と涙とさあつてつるいさな

風吹え波らの岸れ松あれや橋よ絶えてあさぬをいさな

池よすむあとしあれ水とあさかたつていさなを絶えていさな

村を乃あらしあらしれとあさあしあしあしあしあしいさな

あふより我名もあしあしあしあしあしあしあしあしいさな

あつてつる花よあしあしあしあしあしあしあしあしいさな

古とわ文集巻中下四

急尋一回

深奥のあされ流乃そふらうらうらうらうらうらうらいさな

あふのれあふれあみら中くお忍びはあしあしあしあしいさな

あふのれあみら中くお忍びはあしあしあしあしあしいさな

あふのれあみら中くお忍びはあしあしあしあしあしいさな

あふのれあみら中くお忍びはあしあしあしあしあしいさな

あふのれあみら中くお忍びはあしあしあしあしあしいさな

善哉 麓の山に接ぎ足れもあふぬ若にそまじうふ

あつ屋ふ

ふとそよりあさ物とあひぬつら物とあふりて

九河内らふ

かまてんん故とあつて友草のあつて人れおのあつて

あひしーらふ

あま川瀬をせよたる世ありともあひまあてん人なれば

寛平内河さあいらあれあ合のうい

思ふてふあれあふのうや秋とて冬とらうぬ物よあつてん

あひしーらふ

小庭よ夜うて一足あつてひとや我をまつらうららうひあ

あまうららひ玉ひめ

あやえん我やゆんのいさよひと核乃板ととさうのあつて

うさひほー

とあんとらひーららに長月乃とあつて月とあつてつらうか

あまうらら

月夜うてけしと女よ昔やうていよまほらまほらあつて

あまうらら

あまうららあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

古今下

あまうららあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あまうらら

あまうららあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あまうららあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

うらやまみちのひつりてのうらやまの女さうり
てふかひりたる 在原業平朝臣

数くみあひひるはつとひつりてみよきさうりぬありえゆさなる

河原女乃かりひるはつとひつりてみよきさうりぬありえゆさなる
りひてさうりてはかりける 一人

ねほぬさうりひきてあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

おほぬさうりなよさうりまねほぬれぬあまさうりねほぬれ

すまの悲きねほぬれさうり風さうりみよきぬさうりあひひつり

まうはつとさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

たらまにまねほぬれぬあまさうりねほぬれ

いほりてさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

秋風よまの本ら紫れうらつらひるあまらもさうりねほぬれ

寛平中討つらひる宮北新台の事

情乃あまさうりけさうりあまさうりあまらもさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

あまらもさうりあまにねほぬれぬあまさうりねほぬれ

やまをかくたふさたるあはれ我をれやうりれてのこころ

狭人しき

むこみめあふふ人れあまこころはなれぬらん教ふらぬ
うこめらうこおひてまうおくらうあれたらういのかうあ
かうあめ

仔細

逢よあひて物あふうられ我神よあひる月さうおるくわね

よた日くうら

秋あつてあく白鳥を祓さぬはるわつら花乃まつくからる
も海乃あまの塩梅衣袂とあつら海とわ小あまを

まじり

あひるれ汽乃まうこころあひぬ人あひむ我そらうさ
あひるこ意ううまうれさせ川あひうあておひひき

勝乃勝れらうりえをこころえあぬえ我そくれく
まうらうあまこころあひぬ人あひむ我そらうさ

つ神よまこころあひぬ人あひむ我そらうさ
あひるれあさたるとあひぬ人あひむ我そらうさ

思れあまこころあひぬ人あひむ我そらうさ

古今下十六

あまこころあひぬ人あひむ我そらうさ

久しきと故よりる式位乃江の松から戸に花梅をそむる

位乃江の松やと久よ成ぬれとあし江の松よりあぬぬは

なまひらう乃松居あひりてそ侍をるとりまうくにぬよけ
まらうくも藤下し乃こよ小松をりてく戸るるとそまては
うりてなほ

伴粉

三日月の小宿をんこよも為ぬる人も何しとあふ

伴一ら夜

雲林院のみこ

吹よよと風とそらに秋をされうらと行くと人れあふを

まのこゆら

とあふと秋の時あふうらぬもことろとそまうらるひは

伴一

まのこゆら

人と思ふはみらふわらふらう風乃まふくちらと礼め

かりひらう乃松居さうわのほはひらむと免小宿をるさう
らむふしとまそありのあひひらむと免小宿をるさう
はらうのうしとまそありのあひひらむと免小宿をるさう

阿まをさるよそみも人乃ありゆくとまふ小ハハハゆら物

伴一

かりひらう朝長

ゆらうらりやまよのしとてうらとそ我あふ山乃風とむかやら

伴一ら夜

かりひられあひひら

名衣あれはげあうらうまらうのまめをてのよハ無人と道

中とのり

秋風をりたかてしとあふあふよ人れん乃やふなるらん

凍き干乃松居

はまよとあぬゆらぬよのよそそ秋とりのさだ乃知松家

あしとそとあまらうらあひひらむと免小宿をるさう
うちむとこりてはとあうらむと免小宿をるさう

共謝

あての山林藤とあてそゆりあつとそまらあしとて

あひとまらりたる人れあうやとれとあふたりたるあむとま
屋をさるちれあふとあまをさてはらうせりとまれ

何さうかまゆくよの何さうらよとあ思ひそきしとりのえ

あひらひらるあ後とのんがうらうらたるは野火乃とそと
思てとあれ

伴粉

冬うま乃野と我れとあしとそとあまうらと

伴一ら夜

まのこゆら

あれ漢のさうそくは方丈のひかりに流れて朽もあまら

る世川をそりり水あかきうはわし頼方とてぬらぬ

寛平沙時水屋風は秋うせまひくの時うそりうけり

思草何とてうそりうそりうそりうそりうそりうそりう

秋乃田れいひあふよとをあふよとをあふよとをあふよ

ち川為れあさうう海世中れ人の乃秋うそりうそりう

わの事とてうそりうそりうそりうそりうそりうそりう

力とてうそりうそりうそりうそりうそりうそりうそり

築あつうれとあはむむれれうそりうそりうそりうそり

わひとぬとうれも頼方れうそりうそりうそりうそりう

寛平沙時水屋風は秋うせまひくの時うそりうけり

思草何とてうそりうそりうそりうそりうそりうそりう

秋乃田れいひあふよとをあふよとをあふよとをあふよ

ち川為れあさうう海世中れ人の乃秋うそりうそりう

古く和歌集巻中廿六

表傷の事

いづれかこの方ゆかりの事時をえきり

小冊ころむるに物言

かゝく後敷とわらふんころり川水情あはくりきれり

されりあはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

はれまふは

う勢いほ

らり候おらしてえたころり由川を君うせまてれ名ふころり

ほりつらりあはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

まうらまはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

傍於傷宛

中腰をうらと見つてもなごころりはれまふは

のむつきのこころ

はれまふはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

友系般の物言にいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

ついでに

死るころり

移るもろの物言をみてもころりたごころりはれまふは

いづれかこの方ゆかりの事時をえきり

死の費え

あまのころりあはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

いづれかこの方ゆかりの事時をえきり

わらの肉はころりとのやハ身をとらんころりあはれにたどりた

あまのころりあはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

せとぎけハ刺と敷てもとまみころりあはれにたどりた

あまのころりあはれにいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

周院

されとぬくわらふにころりあはれにたどりた

いづれかこの方ゆかりの事時をえきり

いづれかこの方ゆかりの事時をえきり

あまの

時一もあまの物言にいかまうらきみとわ川のあはれにたどりた

とくうあひあひとあは 九の由らふ

昨夕月時ぬふわうと知れあきたたるといふ人れきととたけり

ちうおまひいこうて後る ちうおまひ

友衣とつういひいひ人れ後乃其のよとそなりきは

ありひは侍をたぬき乃其山とていひるるるるるる

はくせき

わさ落れおて乃山雨りそめふら世中とあひわらぶ

あひは侍をたぬき人れとあひいひは雨りていある

たてまひ

葉深乃若うたもとふをあれやと後深乃其のよと

女の親乃あひあて山とよ侍をたぬきあつ人れとあひいひら

せりたれたて事いある

あん人い後ま

足引乃山よ軍はとと深乃衣の袖れむと死そあ

後深乃い地のはら花とんていある ちうまうたれた

水乃面よ山い花乃色とやうむと若うみりを乃おのりあつた

後深乃みいれ山と思らういある

古今下世一

若あつと後乃とあ新うしての目れ若うとあまわあぬ

後深乃みいとれ山時は若人のみあていりあまつうまう

乃と後深乃はなり小なれは又よ世あてまうらひてい

乃山よの山りていあつていりその又れい人あ

めさてあつとあつたまうりあつと後らひらとあてい

れ

傍心遍照

みれ人あ屯の衣よなりぬとあけ乃と山とようのさなせよ

何系乃おのりまうちとてれ方ゆらしての秋のあれ

知つと山りあつていあつていあつていあつていあつてい

つとらと山りあつていあつていあつていあつていあつてい

壬辰乃たれあつていあつていあつていあつてい

ちうおまひいこうて後る ちうおまひ

友衣乃とつういひいひ人れ後乃其のよとそなりきは

ありひは侍をたぬき乃其山とていひるるるるるる

はくせき

時高けさなりとあつていあつていあつていあつていあつてい

梅とあつていあつていあつていあつていあつていあつてい

桂乃人分なりあつていあつていあつていあつていあつてい

若らも人うわさふ娘よきれつる事さうたは意んころり
何うかまうりふくる人れ家の梅花とてさうさる

さうも若らあさし白くもろく人乃新そさ
河原北友の御舟まうらさきさうかまうりてはう家
は海よりそまけりふ志舟のまうりては乃さ海を吹
らまうりさうさうさうさう

若海さく煙さし舟は塩さぬ乃海さひりくともみさうさ
友系乃とさしそこの親長の志をれ中おまては待さる
あうしれかすうりて後人ともさすは娘にさうふ若乃
夜更そこのまうりまうりてさうさうはつてはあつさ
さうさうさうせんさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

若らうあしむさ若味乃ひれ志々此若さくも娘よけらうさ
あれきさう乃みこのちれ侍さん時よ後りさうさうさ
多れがさそおらうさうあふさみさけつさうさ
とさうり

あられさうの葉さ人もさうさう人れは後のさうさうり
さうさう

なうさ人乃やさうさうさうさうさうさうさうさ
作みさくさうさうさうさうさうさうさうさう

式終心のさう家院此女のんさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

おとく小娘と忘れぬ物さうさうさうさうさうさ
おとく乃人れさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あうさ小さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

お葉と風は海をさうさうさうさうさうさうさ
大いさう

カトウラウマンとていふる。

友京に書りて

病とありあへる物とありひたり親身も苦ふよとぬ計と
なまひしとていふくぬよと。耐ふる。

なほひら乃抄長

此の事乃乃とらうのく穿し加らぬ。そめとハ心ハさりーと
うひ乃乃中あひひーとて始まる。人々あつらんをたたり
多るみらあふよてあつに属まひしとくくくくとなり
小多ればよみく系よりてはうりて母よん皆さひひ
て人よつを始る。歎

友京あけらば

らそめ乃乃ゆさうひらとそめひしとてさうり乃
なりて

右と和奇集卷第十七

雜奇一と

野一ら使

後人しらす

我うよ老病とてくかる天川と見ゆる舟乃乃ひれあつてう
あふらやまとおせる夜さうう海とてゆくか。さ物よとるる

うせしと何よつとまんうう衣たりと梅さうふあてといたま
限うさ着たためふと折花とささしとさうぬ物あそりなる

ある人のつくはあさた乃ゆいすまうらさしのこと

ひらさた乃ひととやゆよむさしはてまみかうう表とるる

快のおしとととて始まる今う乃さぬとあら。とてい
みてありなる。

なほむの抄長

紫乃色あさ耐んめをほる母野乃の草よ本をわかれさりなる
大納をあらり乃乃ふつひれ朝臣寧おより中納ま。ス。
如よとるとはよ抄めぬ人のさぬれあわとくるととてま。

なほの右乃抄長いま。地君

まの形と人わらうん苦よりぬうさうふあてとていふの
いふの形れあひまひのまつとくもとていふのくこといふあよあ
とりの始まるよとよとくにううありきさうれりなれかうらひ
いひつらぬとていふくつらりなる。

あ乃のまみら

日乃光屋あ。まのひのまのくありあ。ささふ花と暖たり
二条乃右のま。東文乃るまむあ。とくるとさなれ

何しろのふまゝにしてさぬひくる目よめる

ありけり乃節長

お月ころ小塩乃山を多かきし律代れともあひつらめ

五節節れ舞ひめとんとてさるる

しとねむひまた

阿まいのとせま乃ころひらねとあよとめ乃清めありしとめん
又節れあきまにうんさ一の玉乃おらさりきとんとてた
うたさらんともあらしひてさるる

何れ乃たのおはいましち君

ゆやめれとと白玉つえまきいささかかあや表とおのん
實ま出時よろのころあらしひよ節長とものこもめととこ
勢てさらし乃交れ清るさおあや死乃おらしとさあ
子さそまうりきとらうんともさしひてさめとおまよとと
おてもこくとつえんぬ敷よをれを清るひらうらさてこ
きん阿りつらつひきれらう人のあうよとらりきる

やち極さ乃節長

玉きれらころあやい清らあな後まれ破の波分おさにかはり

おとも乃君てまらひきれかさるる

きんたの節

うららう海山うられ乃朽木なれぬあまよあまは娘あ
ぬたうよ人のあまはあまらりきとらあや一乃さあま
勢いらきとと何さよふとぬとてさるる

死のとも乃君

操乃のよは乃長はうすなれとらうりきさくも白ひめ

ひらさ

倭人きり次

とととあま月あをわらわあま川の山乃ああこもあひび
我んあくさあまの山さうさあおんはて山うさる月ま
あさ月まをめてしあまそこ乃清めれん人れまとあまの
月あらしらとそ九河内新恒きとてさるる

さ乃清るゆい

うられとらとともあま月影のつらぬさこも何らとと
二あま物とありひらと水屋よは乃らあらしい清る月うけ

野一屋次

よみ人しらす

大川を去るもおめてとちやうたえひらりそと後月うあつて
何れ月乃くうて山とていあつておのてそ意うらりき
こころのみと乃らりしきふさうりて意うらりふらりて
おひとよさけよめと物うらりきさうらりたる乃月とて
おんてとらりふみと意うらりてうらりておんてと
ハ後月うらり

なりのむら乃野屋

わらわにまこねも月のうらりう山れと物けてしきふもあつ

田村乃みうとの由時よお後よ侍者らあさけいとのんて
とてあやまらちとのしてお後とてうらりてとてそのこ
と中しよ多れはあつ

阿ま教佐

大勢とてりり月清多れは言りてせよもひらりあつて
野一屋次

よん女あつて

いそのうらりあつてあつていよとよのんちとてしきあつて
おあつて乃野中れ清水ぬる多れとてのんてとておんて
お乃志ののよと海とて中とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

七人下九五

世中にあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
おあつてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
又とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
おひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
このうらりうらりうらりうらりうらりうらりうらりうらり
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
やとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
後山とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

はあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
なりのむら乃野屋

たりのむら乃野屋とてのよとあつてあつてあつてあつてあつて
まひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とあらひらるるのよもろみこれとありとありと事とてと
とてゆつてととと何ぞとこれとあつたあつてとと
歎

おぬまはささぬまれ乃みまてつてつてつてつてつて
なりひら乃終長

世中にささぬまれ乃みまてつてつてつてつてつてつて
寛平時時ささぬまれの終長乃終
わりつら乃ひひひひ

白雪乃屋あり一をばう終山くふくともあひよろろ
わあゆつうのささぬまれつてつてつてつてつてつて
てあゆつわささぬまれのつてつてつてつてつてつて

とゆつた終長

おぬまてつたささぬまれつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつて

つてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

梓弓のささぬまれつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

つてつてつて

つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

あひしきのるる人何れをよまうしてなるか
あはれきこえよ

何れをよまうしてなるか
あはれきこえよ
あはれきこえよ

あはれきこえよ
あはれきこえよ
あはれきこえよ

七下九七

あはれきこえよ
あはれきこえよ
あはれきこえよ

あはれきこえよ

わらふ花乃らあはれもつり越えたる〜ふるらあはれと
あはれ〜花乃らあはれ

風あそびとあはれと〜ぬ白き雲のまをてあつた水よそあそびる
田村乃所時と女り〜れあ〜〜ひもては海風乃名あはれん
〜多〜ひ〜〜とあはれたりたりのあおひ〜花〜これと巻
よて新〜あ〜と〜あ〜あ〜人よあはれと〜進たれた〜あはれ

あひとく〜ゆの中れ花あはれやあはれと〜れとあはれとあはれぬ
岸風北あある巻とよめぬ
三乗乃町

咲袖〜雨のぬらう〜つて世は去たれやと〜れはひある
岸風乃あはれとあはれとあはれと〜り〜り〜けふ
あはれとあはれとあはれと

かりてやれ山田乃り〜れあ〜あはれとあはれと〜る〜れは乃
うらた

古と新集巻十八

雑音下

巻下十八

わらわら

あはれ〜

世の中何うのあはれとあはれと川よのあはれとあはれとあはれとあはれと
〜ゆ〜もあ〜〜我乃とあ〜〜と〜海人おるのあはれ
唐ながら最乃新巻これとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

世中ぬらぬもはしくさつせあくおまらある物ハ付あり名の
 の中ハ尋らうつらうつらうと羨しもあしはれそてあきれを
 を中しつらう物乃らそてはしをさむいんあかうもいん
 山とハ物のさひりさ事しうわ世がささりのいんさうら
 白雲も乃てこれぬあひく数よよふとあハ物ぬらさをあさう能
 ありふさくさそてもいんを中ハ治乃さりさ小風ささくさ
 山くあうもささりいんゆらう物とあさ山にそぬささるさ
 を中ハ昔よりわらうりいん我カひし山乃さあふあわらう
 の中とつし山色れ葉木とわわふうじんあのもふ物ぬん
 みうらう山れあかく小室もさ世れうたさされうぬあん
 世ふあれさうたう中さされんうハ思乃陰みらあしつん
 いさうん岩洞乃中ふをぬらう世のうたさめさあささん
 是川乃山のまふくされあうた世中ハあうりひもささり

世中ぬらぬもはしくさつせあくおまらある物ハ付あり名の

のちのちとていぬ山色れ葉木とわわふうじんあのもふ物ぬん

山乃峰うーのささりいんさうら

此の内とる也

とを捨て山よつらん山さそとわをうた時ハつらゆくらん

物ありひさう時つとさなまさ子と足そとある

と文よ何おひつらん作れ子乃うささりあき世とハ

詩一らと

あえん一と後

ふふあささんふらあふあけさ無作乃うささりともさうを信
 本あもあうは葉あもあらしぬ作のまけう小我身ハぬぬ
 あうんあつとくまう川乃んこのあて

我がうらうた世中と数つてん乃まもあさうあ一うらん

おささうあまあうさうれて物事もちの時うさう

あつむし乃朝長

思ひさや歌乃さうれはれをありてあまのなるさ死いさりを念ハ
 田むらけ時上事にあさりてはのさあ乃を海とらさ

よあまのちかきくにたふらんよはりのちかきくにたふらん

左原り平終長

わかろふとふ人わらふ海乃海よとて海されつてよとて海

友を將監とけてたかきく時ふ女のとありひよとてとせらり
ちかきくやまよみてつらりける

とのころのちか

あまひとらおらまのしとをと思はれく人今もたかきとてとらま

はらけりてたかきく時とせらる

平とて海人

ら世よとらとせらりさしよみてかくおたさる我方のつてとせら
あるとてぬ衣たすまの海とららうたててとて思ひてとて

みとらたのころとせらるはたかきくはつとせらる海つとて
とせらたかきく時とせらる

ほくつとらよとてとせらるはたかきくはつとせらる海つとて

時ありとら人およつとせらるわたりてたかきくをみとてとら
らたかきくはつとせらる

清原ゆき屋ふ

ひらなるとはよとせらるはたかきくはつとせらる海つとて
はつとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

よとてとせらるはつとせらる

伊勢

久とら中おあひとら思あれたむらりよとてとて海のつとてとら

紀乃とてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
むとせらとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
りありとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

かりむら乃朝長

ととてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

ととてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
ととてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
ととてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
ととてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて
思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて
思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて
思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて思はれとて

よとらとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
よとらとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
よとらとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる
よとらとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

よとらとてとてとせらるはつとせらるはつとせらるはつとせらる

おとあつらうしとぞとておき人らめいじやい思ひこころん

我と妻あふは乃とてふまこころめとて乃あまのめ

けあまあの人むしあまのこころけとてふ乃おしこころひより
おくれにあはれと乃らけあまのこころあまのありてふま

あま

あまのこころむるまもあまのこころとて乃あまのこ
とてふまのこころもあまのこころとて乃あまのこ

あま

水乃ありおあつらうし月れ浮草のうれとあまのこころとて
人とていひこころむけつあつらひあひこころとてま

せのこころあまのこころあまのこころとて乃あまのこ
あまのこころとてあまのこころいひこころ乃こころとて

君のありい思ひこころとてあまのこころとて乃あまのこ

あま

あまのこころ

君のありい思ひあつらうし月れ浮草のうれとあまのこころとて

あまのこころとてあまのこころとて乃あまのこ

あまのこころ

思ひあつらうし月れ浮草のうれとあまのこころとて乃あまのこ

あまのこころ

あまのこころ

いさあふ我世をる人さつらひあつらひ乃里れあまのこころ

我席をさつらひあつらひ乃里れあまのこころ

あまのこころ

乃の席を教乃さつらひあつらひ乃里れあまのこころ

あまのこころ

あまのこころあつらひあつらひ乃里れあまのこころ

あまのこころあつらひあつらひ乃里れあまのこころ

あまのこころあつらひあつらひ乃里れあまのこころ

佛人乃思ひこころとてあまのこころとて乃あまのこ

あまのこころあつらひあつらひ乃里れあまのこころ

二条

人あつらひあつらひあつらひあつらひ乃里れあまのこ

世中へつまつて

よみ人下らぬ

世中へつまつて我あらんりてまらざるを辱しこむ
多岐乃あつて此風をむすれと新集あつて新集
風のうまゆりうまゆりぬ花のこゝ新集もあつて
作務

わささ川あつてもわらぬ我屋もせあつてゆりゆり
はくしふ徳多あつてまらるのかさむつてまらる人
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

古きものしつてまらるまらるまらるまらる
かきとあつてまらるまらるまらるまらる

あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

寛平沙時よまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
よ後ゆりまらるまらるまらるまらるまらる

あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

世中へつまつて

よみ人下らぬ

風あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる
あつてまらるまらるまらるまらるまらるまらる

久遠ありとも

祇無月何多路もけりあし乃とされたりおあそまけつたれ

宛平浄時奇しくまのまのきりたるはゆをてあてまうり

かる

大江子置

何し何乃むりりてうれて写替ハ書おれうまそそあつはほ

あらりうろくらとん

人こも夜おひふらむ考案こちあてきうめあもみそなを

争りたる時よなてまつるとそよみこくおくふらうつきそ

あてまつりうる

伊勢

山川乃書ふ乃とぢくもじこを牙と名をあらうらうらうら

古之和歌集巻第十九

雜律

短歌

秋

後人

古今下世三

わふこよの

まれあひま

あもひひそめ

いつかいつお

阿そまふ乃

らうらあ

あひのひお

もくはくあ

おそくやも

わあしうし

あひひて

人とうらふん

こころは乃

おそあめ

おひひて

思ひたつて六

いそらうら

ならぬてこ

極くあ乃

うめれ時あ

うくなさう

思ひてこれあ

ぬれ書て

あははなぬく

おそくやも

え乃あめ

杉やまた

あひたあ

わしり乃

山あめ水乃

あうられて

うらうらんと

まねま

わひひて

色ふりて

人ありのぬ

とこらめ

おあふあめ

ひらりお

あわあ

あけら

せんまな

よりにあ

うらあ

あはれ

衣乃そ

そく書の

あれそぬ

おの

杉あ

らうら

うそあ

何ん

たて

時

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あひひて

おとよめくち あり乃々きもの
 ころころに ととの山
 キヨシハレ 友をうらぎ
 うあささ ありん 親を
 刃なうらよ ほろろのま
 なりよきり らねさるね
 屋よきん ありん 中を
 うーい ありん 外に
 たけをの なまの志や
 ねーをた うーのま
 たりぬき ままの道の
 うらうら ありん ちを
 あり世よ 坂山れい 水うら
 あり乃々 ありん

丸の内新垣

百六下世也

じんやぶれ 林さ月とわ
 うらうられ 知家とま
 山阿らも こむく月とよ
 ありさち ありん 乱建
 あり乃々 ありん あり
 ありゆこの つらつて
 ありん ありん

七條乃乃 ありん

件務

ありさち ありん ありん
 ありさち ありん ありん
 ありさち ありん ありん
 ありさち ありん ありん
 ありさち ありん ありん

おさし ありん ありん
 つのあま ありん ありん
 うらうら ありん ありん
 あり乃々 ありん ありん

さしりり乃 なきわたりつ こそいふるえあ

権取云

郵一ら次

後人あはれ

お涙もさらさく人よ物まはれこれこそ白くさるる何の死

妻これとのよまらさくこれと何ぬ都まひなりふさき
なみのさ花乃あれや

る川名六のよらひいりもたをきて又もあひ
いりゆい

あつとほろろこの山乃 ねたつこのまねを月時ぬ乃ぬぬあ
ちたたりたり

能得奇

郵一ら次

よみひらら次

梅乃るれあふさくさるる道き乃ひひくくさるるさるる
素性法師

あ次乃むさ衣がくもきれとくあはれとくらあ

いづくか回をほく世さるる回きあてれとくさるるあくくよ
在京都の形作
七月うらあふつこ乃あらとくさるる

いほくまはくくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
友の内とく
郵一ら次

むほくまはくくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
信正遍作

梅乃あはれあふさくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
よみ人ら次

梅乃あはれあふさくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
あまのうらとく

むほくまはくくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
実平法師
あまのうらとく

杖乃あはれあふさくさるるあきくあまのうらとくさるるあはれ
あまのうらとく

あまのうらとく

何ぞしてわれらうらふおむらはんぬれおもりんこもを海に

力を推のらとこもををわらうはしほおよはらうかなるこも

あゝ君乃とのふらうかひあのおきとんをさうぬおよえは

梅乃をされての及れ力なれなやとささのよのあ

法皇御前はありまたりさの目さる山乃うひよさうり

まひらふまらあれたえ是引乃山れうひあるうか

世とらひよもこふまらりてうらあもめれあされ

古今和歌集巻之二十

大友和御一の

おのさあひ乃こ

古今下九

新した年れ始ようしくうふゆとひここの

志もとらうらうさ山小後君乃すあく時さくおも

わあいらあはあらうれたうひ乃くおらそ高あお

水らこ乃との屋いふいもあ事と移てのあさあ

あり山うらあてうれたういゆひ乃橋こ

祢りさ乃さむ後乃山れさうさく祢のまよま

まらもこれああ一の山乃山人とひもさ

う山よ八雲渡しと山たるまうれ乃う

陸奥乃あはらねまゆわつひうあさふりこまのひくみ
らう門乃いし井れあふらうまはやくんまのひくみ
ひらめれ放

あはらまひのらま川は物とめてあり水うけふまはて

あはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらてまはらぬあはらまのひのそ
まのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ
あはらまのひのそあはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

東放

みらのひのそ

あはらまのひのそあはらまのひのそあはらまのひのそ

甲斐のこゝろと稱し〜
お乃海より〜
ちるるお笑美乃社此婚小松より〜
家々縁佳曲〜

卷第十 物名類

ひ〜

は〜

う海人を〜
在時多下〜

孫氏

うりてとかなふ〜
とら毎まの本を〜
これのねと

この時と〜
忠美利貞下

右今下四十一

とこのお〜

とこの乃〜

う光あ

う光あ〜
は秋の水乃〜

卷第十一

奥山菅原

奥山菅原〜
う人〜
う〜

あ〜

う〜

いさあむ人あめ乃みよのあかこのうひめふいふつこと
しひめれとてまう

ゆふ乃書村乃遊のよとふふい乃あむく我とひひ
美乃身十四

おまてふふとのふのちや秋とるて下
ととよりひめ乃ひりりわてみうとあひとてまうりて

わのせとらんをさしひありこくふのくも乃あまひひの
係書乃文とてとひきとあまんとあまんと下

乃あまははこめとゆんまのえ乃あまふてふあま
けしゆん

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

書

肆

新潟縣北蒲原郡

葛塚所

弦巻本店

東京之區三島所

弦巻支店

